

三橋 寛治

昨年5月10日から10日間バルカン半島の旧ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国を旅行しました。メインはクロアチアでしたが、スロベニア、ボスニアヘルツェゴヴィナ、モンテネグロにも足を伸ばしました。ここではクロアチアでの思い出をお話しようと思います。

クロアチアの南部はイタリアの東海岸を対岸にもつアドリア海に面した温暖な地方で、北部はスロベニア、ハンガリーに接した西欧的な雰囲気を持った地域で、中部は山岳地帯のセルビア、ボスニアヘルツェゴヴィナに接する地域といえます。第2次世界大戦後、チトー大統領（クロアチア人）が率いるユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国に属していましたが、彼の死後、セルビア人のミロシェビッチ氏が勢力を伸ばし、セルビア人優遇策をとったのを嫌って、1961年に連邦共和国から離脱し独立しました。もちろん、独立に際してはセルビア人を中心とする連邦軍が反対し、内戦を経ての独立でした。首都ザグレブにはいまも独立を記念する三色旗がはためいていました。クロアチア旅行での観光地は多数ありますが、ここでは3箇所を紹介します。

その1つは南部地域に属する「スプリット」です。ここはかつてのローマ皇帝ディオクレティアヌスの居住区（退位後の宮殿）があったところで、アドリア海に面したすばらしい港町です。デ皇帝は284年に即位しましたが、当時ローマ帝国の領土があまりにも広大であったため、自分1人で統治するのは難しいと考え、領土を4分割して4人の皇帝で統治することにしました。これが後に東ローマ帝国と西ローマ帝国に分割されるきっかけを作り、のちのちにはローマ帝国の滅亡へと続いたともいわれています。そのデ皇帝の宮殿内の一部には現在、住民が住み着いていて、みやげ物店なども開かれて観光客で賑わっていました。海岸沿いの歩行者天国の道は広々としていて多くの観光客がそぞろ歩きを楽しむことができ、海岸沿いには売店もなく、たむろする若者も見かけず、警備員も見かけませんでした。町全体が清潔、清純という感じの名所でした。私はフランスのニースなどよりはるかに気に入りました。今後、この地が有名になれば俗化していくのではないかと心配にもなりました。

2つ目は中部地域に属する「プリトヴィツェ湖群国立公園」です。この公園は山中に降り注いだ雨水が石灰岩のなかを通り抜け透明な水となって湧き出て、それが大小さまざまな湖に次々に流れ込んでいる広大な公園です。そのエメラルドグリーンの水の美しさ、たむろする無数のマスの群れ、完備された遊歩道、全貌が掴みきれないほどの規模の大きさに圧倒されました。中国四川省の九寨溝と双壁をなす自然美として有名で、西洋の九寨溝ともいわれています。

3つ目は最南部地域の「ドブロヴニク」です。ここは中世より地中海交易の中継点として栄えた港町で、10世紀頃まで先端に突き出た小さな島でしたが、その後陸続きになり、コンスタンチノーブルとヴェネチアを行き来する船が立ち寄って栄えた商業都市であり、城塞都市でもあります。幾多の国に隷属しつつも、たくみな政治力によりこの地域の独立自治権を得てきたため、中世の姿をそのまま現在に残しています。もともとこの地は地理的にはヘルツェゴビナやモンテネグロに近い位置にありますが、クロアチア独立時に住民投票でクロアチアに属することを決めたとされています。それ故、クロアチアの領土からは飛び地に当たります。もちろん、独立時にはセルビア人を中心とした連邦軍の反対に遭い、内戦を経ての独立でした。こじんまりとした旧市街地は多くの歴史建築物が存在し、海外からの観光客も多く、治安も良く清潔感がある美しい街でした。市街地を取り囲む城壁の上を歩くこともできます。

ところで、旧ユーゴ連邦共和国は今では自壊したといえるでしょう。連邦国に固執するセルビア共和国は今なおコソボの独立に反対しています。連邦を離脱したボスニアヘルツェゴヴィナは今もNATOの管理下に置かれています。400年も続いたオスマントルコの支配によって生まれたムスリム人（イスラム教を信奉するセルビア人、クロアチア人、トルコからの移住民）、主としてキリスト教を信奉するクロアチア人、セルビア正教を信奉するセルビア人の3者が互いに譲らず内戦状態にあるからです。それ故、この連邦共和国はモザイク国家とか離散国家とか言われています。



三橋 寛治 (みつはし かんじ)

自動化・省力化への支援、
産業用ロボット導入支援、
趣味は旅行、野菜作り。